

東芝パッケージエアコン

(空冷インバータヒートポンプ式床置形スタンドタイプ)

定格冷房能力 (注1)	kW	4.5	<1.0~5.0>	室 外 機	形 名	ROA-AP505H		
定格冷房時の顕熱比	-	0.82			外 装	シルキーシェード(ワッパ1Y8.5/0.5)		
定格暖房標準能力 (注1)	kW	5.0	<1.0~5.6>		外形寸法	高 さ	mm	550
						幅	mm	780
定格暖房低温能力 (注1)	kW	4.4			総 質 量	奥 行	mm	290
						機 式	kg	34
冷房エネルギー消費効率	-	2.92	/ 2.92		圧 縮 機	形 式	全密閉形	
暖房エネルギー消費効率	-	3.52	/ 3.52			電 動 機	kW	0.75
冷暖平均エネルギー消費効率	-	3.22	/ 3.22		送風装置	極 数	4	
						送 風 機	フィンチューブ	
中間冷房性能	中間冷房能力 (注1)	kW	2.2	冷媒制御	(冷)	電子制御弁		
	中間冷房消費電力	kW	0.622		(暖)	電子制御弁		
	中間冷房エネルギー消費効率	-	3.54	/ 3.54	送風装置	送 風 機	フロベラファン	
	中間暖房能力 (注1)	kW	2.4	標準風量	m <sup>3</sup> /min	39.0		
中間暖房性能	中間暖房消費電力	kW	0.622	電 動 機	kW	0.043		
	中間暖房エネルギー消費効率	-	3.86	高圧スイッチ	MPa	-	-	
				低圧スイッチ	MPa	-	-	
				保護装置	吐出温度セーフ 過電流セーフ 圧縮機セーフ			
通年エネルギー消費効率	-	3.7		ケースヒータ	W	-		
				騒音値 (冷)	dB	46 / 46		
電気特性 (注2)	電 源 (注3)	三相 200V 50/60 Hz		騒音値 (暖)	dB	47 / 47		
	定格冷房消費電力	kW	1.54	冷媒・出荷時封入量	kg	R410A・1.00		
室内ユニット	定格暖房標準消費電力	kW	1.42	冷媒追加不要の最大実長	m	20		
	定格暖房低温消費電力	kW	1.74	冷媒追加量	g/m	20		
	運転電流 (冷)	A	4.73	冷媒配管	室外機・室内ユニット間	mm	ガス側：φ12.7 液側：φ6.4	
	力 率 (冷)	%	94	最大実長	m	30		
	(暖)		4.36	最大落差	m	室外機が上の場合：30 室外機が下の場合：30		
	(最大)		7.2	電源設計	漏電遮断器 (注14)	15A、30mA 0.1sec以下		
	率 (暖)		94	手元開閉器	開閉器容量	A	15	
	始動電流	A	- / -	手元開閉器	ヒューズ	A	10	
室内ユニット	形 名	AIF-AP505H-1		電源配線	配線用遮断器	A	10	
	外 装	前面キャビネット	シルキーシェード(ワッパ1Y8.5/0.5)	電源配線 (注13)	20m以下	単線1.6mm		
		側面キャビネット	シルキーシェード(ワッパ1Y8.5/0.5)		50m以下	単線2.0mm		
	外形寸法	高さ	mm	1,750	連絡線	室外機・室内ユニット間	70 m以下	単線1.6mm×3本
		幅	mm	600				
	総 質 量	奥 行	mm	210				
		機 式	kg	51				
	空気熱交換器	フィンチューブ						
	防音・断熱材	難燃性ポリイソフォーム・ポリフレン						
	送風装置	送風機	シロココファン					
標準風量		m <sup>3</sup> /min	15.0					
電 動 機	kW	0.037						
エアフィルタ	室内ユニットに付属							
運転調整装置	室内ユニットに内蔵							
ドレン口径(呼び径)	20(塩ビ管)							
騒音値(急-強-弱)	dB	47-42-37						

(注13) 各線径での最大こう長は下記参照願います。

線 径	電源線こう長(最大)
単線1.6mm	32
単線2.0mm	50
撚線5.5mm <sup>2</sup>	88
撚線8.0mm <sup>2</sup>	-
撚線14.0mm <sup>2</sup>	-
撚線22.0mm <sup>2</sup>	-
撚線38.0mm <sup>2</sup>	-

(注14) 漏電遮断器が地絡保護専用の場合には手元開閉器+ヒューズ、または配線用遮断器を設けてください。漏電遮断器は、高調波対応品を使用してください。

(注1) 冷房能力は、JIS B 8615-1条件によります。

< > 内は能力範囲を示します。

(注2) 電気特性は、JIS B 8615-1条件によります。

(注3) 電源電圧は、変動があった場合でも±10%を超えないようにしてください。